

# 令和5年度 加古川中学校 学校自己評価

## 1 学校教育目標 「自らを律し、ともに学び合う生徒の育成」 - 3School Project 充実でwell-beingの向上を - Smart Tough Heartful

<b>2 本年度努力目標</b> (1) 3School Project(Smart SDGS NIE)の推進 (2) 命を尊び、自他を大切にし、いじめを許さない、豊かな人権意識をもつ生徒の育成 (3) 生徒の学力向上を図るための学習指導の工夫・改善 (ICT活用、スマート探究学習等) (4) 学校運営協議会及び加古川ユニット教育推進協議会による地域とともにある学校の充実 (5) 学校組織力及び教職員の資質能力 (VSOP)の向上
--

## 3 自己評価と改善の方策

評価基準				
A:できている	B:だいたいできている	C:あまりできていない	D:できていない	E:わからない
努力項目	評価項目(具体的な実践目標)	達成状況	改善の方策	
(1)「確かな学力」の育成	進んで学習に取り組む	B	ICTを積極的に活用し、個に応じた指導の充実を図るとともに、興味・関心をもって主体的に学習に取り組む姿勢や学び続ける生徒の育成に努める。また、家庭と連携し、家庭学習の充実を図る。	
	基礎基本の定着	A	MEXCBTやモジュールを活用した個別学習の充実を図り、既習内容との関連性や系統性を考えたスパイラルな学習活動を設定する。	
	授業改善の工夫	A	公開授業による相互観覧や職員研修の実施により授業実践力の向上を図る。これまでの実践とICTの効果的な活用により、生徒の力を引き出す授業づくりを推進する。	
	思考力・判断力・表現力等の育成 (スマート探究学習・協働学習)	B	ICTを活用した協働学習の場を積極的に取り入れ、生徒自らが学び考え、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。	
(2)「健やかな体」の育成	校舎内外の環境整備	A	破損・危険箇所の点検を定期的に行い、修繕や補修などを優先順位を決めて計画的に行い、安全安心な学校づくりに努める。また、生徒自らが身の回りの環境を整えられるよう指導をする。	
	健康・安全を大切に学校づくり	A	養護教諭と連携し、保健だより等を活用しながら情報発信を積極的に行い、健康に対する意識の向上を図る。また、職員研修を計画的に実施し、対応力や実践力を高め、危機意識を持った行動がとれるよう心がける。	
	適正な部活指導	A	ガイドラインに基づき、体力や技術の向上を図るだけでなく、生徒の人権や人格を尊重した指導や自主性を尊重した指導を心がける。	
(3)「豊かな心」の育成	あいさつ・会釈を励行する	A	生徒の模範となるよう、教職員自らがあいさつを心がけ、実践するとともに、生徒会のあいさつ運動をさらに充実した活動になるよう努める。	
	清掃や片付け	B	教職員が率先して清掃活動の範を示し、清掃の仕方や活動への取り組み方などの指導を行う。また、生徒会を中心とした環境美化活動の一層の充実を図る。	
	道徳心・人権意識の高揚	A	計画的に職員研修を行い、教職員の人権意識と指導力の向上を図る。また、日常の学校生活の中で、生徒の道徳性や人権意識の育成に向けた取り組みを積極的に行う。	
	居心地の良い学級・学校づくり	A	生徒の状況把握をしっかり行い、丁寧な指導と信頼関係の確立を図る。また、状況に応じてMSやSC、SSWとも連携を取りながら迅速に対応し、安全・安心な学校、学級づくりをしていく。	
	生徒会活動の活性化	A	校則の見直しや生徒会役員の公約に基づく新たな取り組みなどの主体的な生徒会活動を支援する。生徒会を中心とした「こころの絆」を深める自主的活動を継続、発展させていく。	
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	時間を守る	B	時間を意識して行動することについて、様々な教育活動を通じて、組織的な指導を行う。また、常に現状把握に努め、家庭との連携を強める。	
	服装を正す	A	校則の変更をふまえ、学校全体で同一歩調で指導ができるよう教職員の共通理解を図る。また、保護者とも連携を取りながら、生徒一人一人が責任をもってルールを守ることができるよう指導していく。	
	いじめを絶対に許さない集団づくり	B	「いじめ防止基本方針」の基本理念のもと、正確かつ積極的認知に努める。また、生徒会活動や人権学習、生活相談アンケート等を利用して未然防止、早期発見・早期対応に向けた取り組みを積極的に行う。	
	教育相談の充実	A	カウンセリングマインド等の職員研修を計画的に行い、教職員のスキルの向上を図り、内面理解を基盤とした丁寧な指導を行う。必要に応じてSCやSSWなどと連携をしながら、きめ細かな対応をしていく。	
	特別な支援が必要な生徒への対応	A	支援を要する生徒に対して、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら、教育的ニーズに応じた支援を行う。また、特別支援教育への理解を深めるための職員研修の充実を図る。	
(5) 開かれた学校	学校行事等の工夫	A	行事の目的や効果を検証し、PDCAサイクルを活用しながら内容の精選や改善をしていく。全職員が協力し、全校生で取り組める行事にしていく。	
	情報発信	A	学校通信やHP、スクリーンや39メール等の連絡ツールを活用しながら、分かりやすい情報発信をすることで、保護者や地域の理解と協力を得ながら、教育活動を行っていく。	
(6) 特色ある取組	スマートスクール	A	スマートスクール推進委員会を中心に、今までの取組の成果を活かしながら、持続可能なICTの活用による授業改善や業務改善等の実現に向け、先進的に取り組む研究を推進する。	
	SDGsスクール	B	SDGsの達成に向けた情報発信を積極的に行い、17の目標の周知に努める。また、総合的な学習に時間等を活用し、生徒自身が立てられる目標を設定し、様々な場面でできることに挑戦する教育活動の充実を図る。	
	NIEスクール	C	新聞記事を教材として活用することで、学習のさらなる充実を図る。その取り組みや成果を学校通信やHP等を通して広く発信することで、保護者や地域への周知を徹底する。	
	well-being	A	自分にとっての幸福度や満足度を意識させ、毎日学校に行きたいと思える教育活動を進める。	
	勤務時間等の業務改善	C	ICTを効果的に活用することで校務の効率化を図り、連携・分担による業務改善を一層推進していき、教職員の負担軽減を図る。また、タイムマネジメント研修等を行い、時間を上手に使う方法を模索しながら、職員の働き方に対する意識を変えていく。	